

漁況予報 いわし

第 1 2 5 号

2004年 9~10 月漁期
(2004年9月 日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網における7月のマイワシ総漁獲量は、330トンで前年同期の16トンを大きく上回る漁獲量となりました。ただし、魚群が佐島～藤沢地先に偏っていたようで、三浦や西湘地区での漁獲量はさほど増加しませんでした。各定置網とも、中羽マイワシ(0歳魚 2004年級群: 13~14cm)主体に同(1歳魚 2003年級群: 15~17cm)混じりの魚種組成となりました。

佐島地区のまき網は、7月に入り今年初めてのマイワシ漁が開始されました。上旬から中旬は0歳魚主体でしたが、下旬は1歳魚主体の魚種組成となり、3統合計で200トンの水揚げでした。単価も80~100円/kgを維持しました。

8月に入ると、10日過ぎまでは前月に引き続き、定置網及びまき網でも好漁が継続しましたが、お盆休みを境にマイワシは漁場から逸散してしまい、月末まで殆ど水揚げはありませんでした。

【かたくちいわし】

主要定置網における7月のカタクチワシ総水揚げ量は、115トンで去年同期(800トン)を大きく下回りました。8月も120トンで同510トンを大きく下回りました。ただし、漁業者の話によれば、沖合域ではまとまった群れが確認されていたので、来遊量が極端に減少したのではなく、マイワシが沿岸海域に大挙来遊したことが、漁獲量の減少につながったものと思われます。魚体は2ヶ月とも10~11cm台の小型成魚が主体でしたが、8月には7~8cm台の未成魚も混じりました。

佐島地区のまき網は、2ヶ月を通じてマイワシに漁獲努力が向けられたため、カタクチワシはマイワシに混じる程度しかありませんでした。

【しらす】

厳しい漁模様が続き相模湾のシラス漁ですが、7月に入ると、上旬は東部で50kg/統/日でしたが、平塚を中心とした奥部では同200~300kgと好漁となりました。中旬になると全域で好漁となり、東部で同100~250kg、奥部で同200~800kgで、下旬まで好漁傾向は継続しました。

ところが、8月に入ると再び減少傾向に転じ、特に東部地区は魚探にシラスの反応すら出ない日が多くなり休漁状態になってしまいました。奥部も上旬こそ同200~400kgの漁獲水準を維持しましたが、お盆休み以降は散発的な漁模様になってしまいました。そして、最後の1週間は台風16号によるうねりにより全域で休漁を余儀なくされました。

＝ 予報 ＝

まいわし

今漁期は、中羽イワシ(2004年級群)が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の水揚げ量は、約35トンと予測されます。

*縦軸: 主要定置網+まき網の水揚げ量

かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び未成魚が漁獲の主体となります。

今漁期の漁獲量は、約140トンと予測されます。

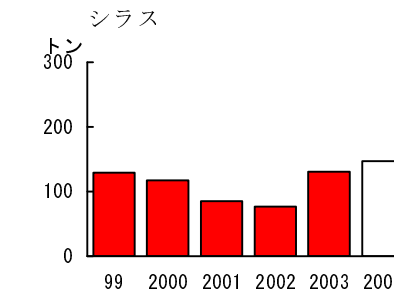
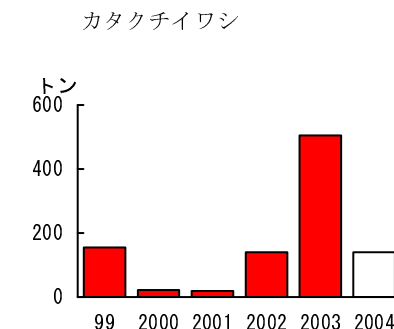
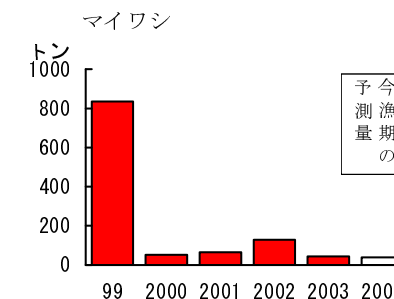
しらす

今漁期は、7~8月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

今漁期のシラスは相模湾内で生まれたものが中心になります。

今漁期の漁獲量は、カタクチシラス主体で約145トンと予測されます。

過去5年の9・10月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量



神奈川県水産総合研究所 資源環境部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313